

2022年度 十文字元気プロジェクト報告一覧

No.	プロジェクト名称	代表者	構成員	担当教員	プロジェクト実施報告
1	おいしく手軽に食品ロスを減らそうプロジェクト！	食品開発学科 小堺	22	梶野涼子 高谷和成	3つのチームに分かれ、食品ロス削減レシピの考案、発信を行った。 チーム1は野菜の捨ててしまう部分を活用したレシピとして「かぼちゃ」の綿や種を使ったレシピを3つ考案し、食品開発学科が行っているブログ「note」と「YouTube」にて発信した。チーム2は野菜以外の捨ててしまう部分を活用したレシピとして「紅茶・緑茶のティーパック」を1度使用した後の活用レシピを4つ考案し、「note」でブログを作成し発信した。チーム3は家に残ってしまいがちな食品を活用したレシピとして「とりかわ」や「薄力粉」、「牛乳」などを使用したレシピをいくつか考案し、試作も行ったがレシピを発信できる形にできなかった。また、チーム1と2で考案したレシピのうち5つのレシピをレシピカードという形で冊子にした。
2	オリジナル食育3Dパズルを作ろうプロジェクト	食物栄養学科 福田	6	芝崎本実	埼玉県立浦和工業高校の高校生と共同して、3Dプリンターを使い3D食育パズル(型はめパズル)を試作した。 対象者は保育園児(3～5歳児)とし、給食と連動させた食教材となるように、食材の立体感や構造をわかりやすく遊びながら学べる工夫を考え、3Dパズルの形を赤・黄・緑×2面の6面立法パズルとした。食育という視点で、それぞれの色面にどのようなパーツ(食材)が入るか検討し、赤:4種類、黄:2種類、緑5種類とし、食材の形や色、断面図をデザインした。新型コロナウイルスの影響でスタートが遅れたため、3月中旬時点で試作段階で完成はしていない。
3	外国にルーツを持つ子どもたちとおかあさんサポートプロジェクト	文芸文化学科 黒須	29	松永修一	志木国際交流会の外国にルーツのある子どもたちとお母さんたちをサポートする活動を行った。8/2は本学で開催し、子どもたちの宿題の手伝いや日本文化体験(子どもたちは縁日をテーマにしたワークショップやゲーム、保護者の方は書道と剣道)を行った。2/26は志木国際交流会が主催している「にほんごツリー」という活動に参加した。外国にルーツのある子どもたちやお母さんたちが直面する様々な課題を知ることができ、課題解決に向けて、今後も、新座に住む外国にルーツのある子どもたちやお母さんたちの居場所となる「はっちぼっちひろば」の運営、「にほんごツリー」のサポートを継続していきたいと考えている。
4	サッカー部応援プロジェクト	健康栄養学科 笹原	8	飯田路佳 相馬満利 渡邊孝枝	2022年11月28日～12月9日7号館の1階でサッカー部への応援メッセージを集める活動を行った。メッセージを集め、サッカー部へのプレゼントを作り渡した。
5	十文字MIXプロジェクト	生活情報学科 大嶺	12	星野祐子	プラスちゃんとプラスちゃんらぶのメンバーが以下のクラブ・同好会を訪問した。占星術同好会・書道部・オリエンテーリング部・ユースボランティア部・手話部 主に活動についてインタビュー形式で取材し、可能な場合は、模擬体験や実演など実際の活動の様子も取り上げた。取材した動画に音楽や字幕をつけて編集を行い、プラスちゃん公式ツイッターにて情報発信した。学内外の多くの方の目に留まり、各クラブ・同好会に対して興味や関心を持ってもらえた。プラスちゃんが学内を移動しているときにも、たくさんの注目を集め、多くの人を笑顔にすることができた活動であった。
6	ぱくすくプロジェクト	食物栄養学科 大野	8	中岡加奈絵	9月6日(火)新座市内の保育所において食育活動を行った。夏が旬の野菜や果物の断面写真を園児に見せて、その名前を当ててもらうクイズや野菜の色素を使って染め紙遊びを行い、野菜や果物に対する子どもたちの興味関心を深めることができた。私たち学生も保育現場や幼児期の発達に対する理解を深めることができた。また、食育活動を想定した調理実習を3回行い、「ほうれん草のマフィン」では食物アレルギーや代替食について、「ふりふりうどん」では子どもと一緒に作る効果等について、「クリスマス料理」では絵本の料理の再現が子どもに与える影響について学ぶことができた。
7	幕を上げる	文芸文化学科 高橋	12	小林 実	「女性を生きる」を題材に、十文字学園が設立された時代を背景とした台本を作成し、桐華祭で演劇の公演を行った。 また、「女性の生き方から見る女性観の変遷」について調べ、学生の十文字学園が設立された時代に対する関心を高めるために、ポスター発表をした。
8	みんなのひろばinあたご	人間福祉学科 中村	4	山口由美 人見優子	6月は「今月の絵」と称して地域の方と模造紙一枚の絵を完成させ、以降毎月一枚、テーマを決めて完成させることとなった。7月は大学内のボランティアセンターから学生が数名参加し、更に活気あふれた会となった。9月にはひろば内で縁日を行い、10月は参加者が仮装してひろばがある商店街をスタンプラリー形式にして巡るという催しも行った。地域の方が先生となり行なった11月の水墨画教室や、12月のあたご商店街で行われる防災訓練に参加したりと、毎月地域の方々や学生たちの意見やアイデアを柔軟に取り入れ活動することができた。今後はさらに活気ある活動にしていきたい。